

IVIシンポジウム2020 -Spring-
2020年3月13日

業務シナリオセッション C

データ共有が奏でる未来の世界

Future world that data sharing Opens up

コメンテータ **内藤 丈嗣 様** 様

データ流通推進協議会技術基準検討委員会委員長
オムロンイノベーション推進本部

モデレータ **水野 博之**

社) IVI ビジネス連携委員会 委員長
CKD (株) コンポーネント本部 ネットワーク技術部 部長

内藤 丈嗣 様

データ流通推進協議会 技術基準検討委員会 委員長
オムロンイノベーション推進本部

1986年：立石電気（現オムロン）（株）入社
以来センシングシステムの研究・開発に従事

現在：オムロン(株) イノベーション推進本部
インキュベーションセンタ SDTM推進部

2017年～：IoT推進コンソーシアム データ連携サブワーキング 委員

2018年～：データ流通推進協議会 技術基準検討委員会 委員長



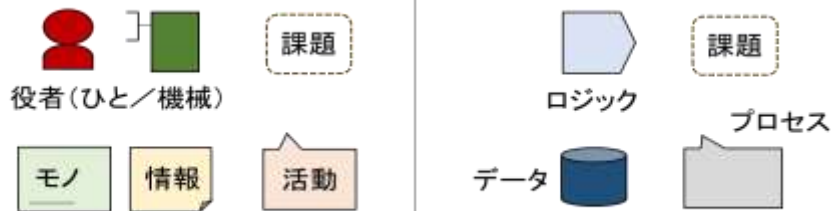


★業務の流れをまとめた単位で切り出した **業務シナリオ** を活用する。いわゆるシナリオとは、演劇や小説における筋書きである。シナリオには作者が存在し、作者の意図によって記述されたものではあるが、その内容は現実中存在するもの存在しそうなもので構成されている。

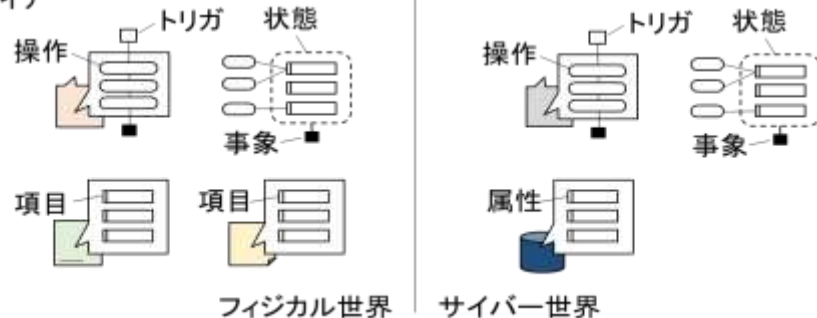


IVRA-Next
P 14 参照

活動レイア



仕様レイア



フィジカル世界 サイバー世界

「IVI流！業務シナリオ」超入門(これだけは知っておきたい)

IVIでは、業務シナリオの形式で、現場でおこなっている具体的な活動を「AS-IS」「TO-BE」という2つの視点から明らかにします。

「AS-IS」という視点


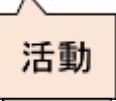
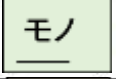
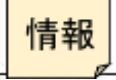

AS-ISとは、現時点でのあるがままの姿をいいます。問題を議論するにあたり、まず現在の状況を正しく認識し共有するためには、あえて飾らず、誇張せず、現在の仕事のしかた、モノや情報の扱い方をそのまま記述します。

「TO-BE」という視点

TO-BEとは、こうあるべき、こうでなければならないという状況を、表現したモデルです。現在、そのようなことはできていないが、近い将来にそうしたい、という姿を描きます。高い理想を掲げるのではなく、実際にできるゴールを設定します。

IVIのシナリオ記述方法

IVIの業務シナリオを「AS-IS」「TO-BE」としてそれぞれ記述するには、IVI独自の表記方法を用いています。IVIでは、現場(その活動が行われている場所)を起点としています。業務シナリオは、そこで活動している人を「役者」として定義し、その役者が行う「活動」、そしてその活動が対象とする「モノ」「情報」について、以下のようなアイコン図形を用います。

役者		役者とは、個人名ではなく、社長や検査員など、その役割り名で指定します。特別な例として、機械など、自律的に動くモノを役者として定義することもあります。
活動		活動は、役者からの吹き出しで記述します。吹き出しの中に、その役者が行う活動の内容を文章で説明します。活動に順番がある場合には、文章の最初に番号などを書いておくと便利です。活動の対象となるモノ、情報へは、役者から矢印をひいてください。
モノ		活動が対象とするのは、モノまたは、情報となります。モノは、物理的に存在し、目に見えるものです。機械や工具や材料などが相当します。コンピュータもモノとして扱われます。
情報		情報は、人(役者)に対して、何らかの意味のあることを伝達するためのものです。帳票や伝票、カードやホワイトボードなどは情報として、その内容が重要です。
データ		データは、モノや情報をもつならんかの値を一定の形式でデジタル化されたものである。データは、サイバー世界において、ロジックによって高速、高精度に加工、蓄積、伝達することができるようになります。

最後に、データの表記も追加しました。実際にデータは目に見えませんが、モノや情報がデータとして扱われている場合などは、その右側にデータのマーク(デジタルマーク)をつける場合があります。

AS-IS

現時点でのあるがままの姿

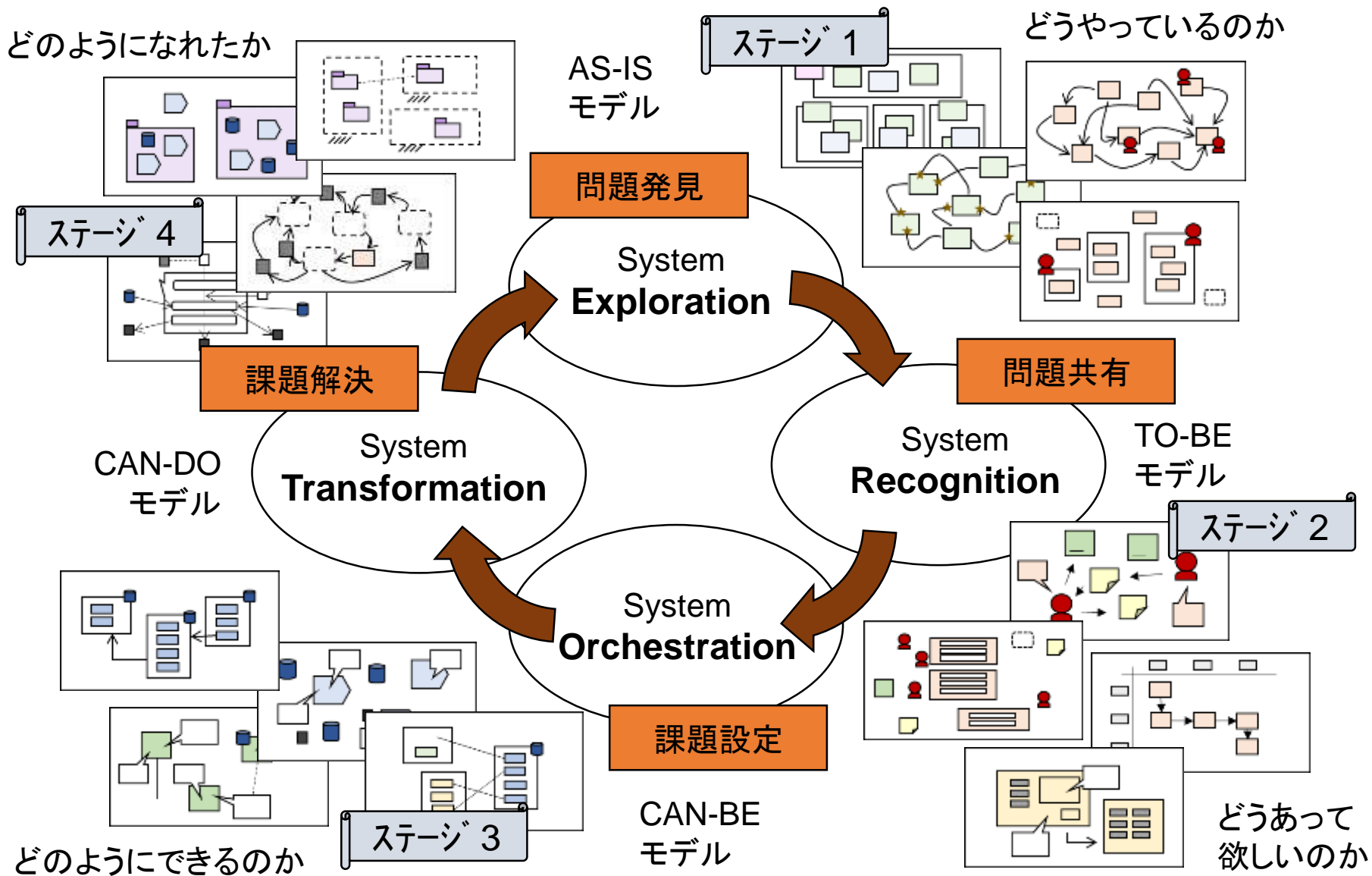
TO-BE

こうあるべき、こうでなければいけない

- ✓ 役者
- ✓ 活動
- ✓ モノ
- ✓ 情報
- ✓ データ

- 発表時間は各WG 20分です。
- 大まかな流れは、以下の様になります。
 - ✓現状課題と目指す姿
 - ✓実証実験シナリオ
 - ✓システムの構成
 - ✓実証実験の結果
 - ✓成果と今後の課題
- 各WGの見どころ、押さえどころはムービーにて紹介します。
- ヒト/コト/データ/情報を16チャートをして説明する場合があります。詳しくは次ページで紹介します。

スマートシンキングとEROTサイクル



セッション

A

操

デジタルで**操**る匠の職場

Takumi's workplace that digitally is **O**perated

セッション

B

装

AI**装**い現場改革

On-site reform accompanied by AI

セッション

C

奏

データ共有が**奏**でる未来の世界

Future world that data sharing **O**pens up

セッション

D

創

可視化が**創**る効率生産

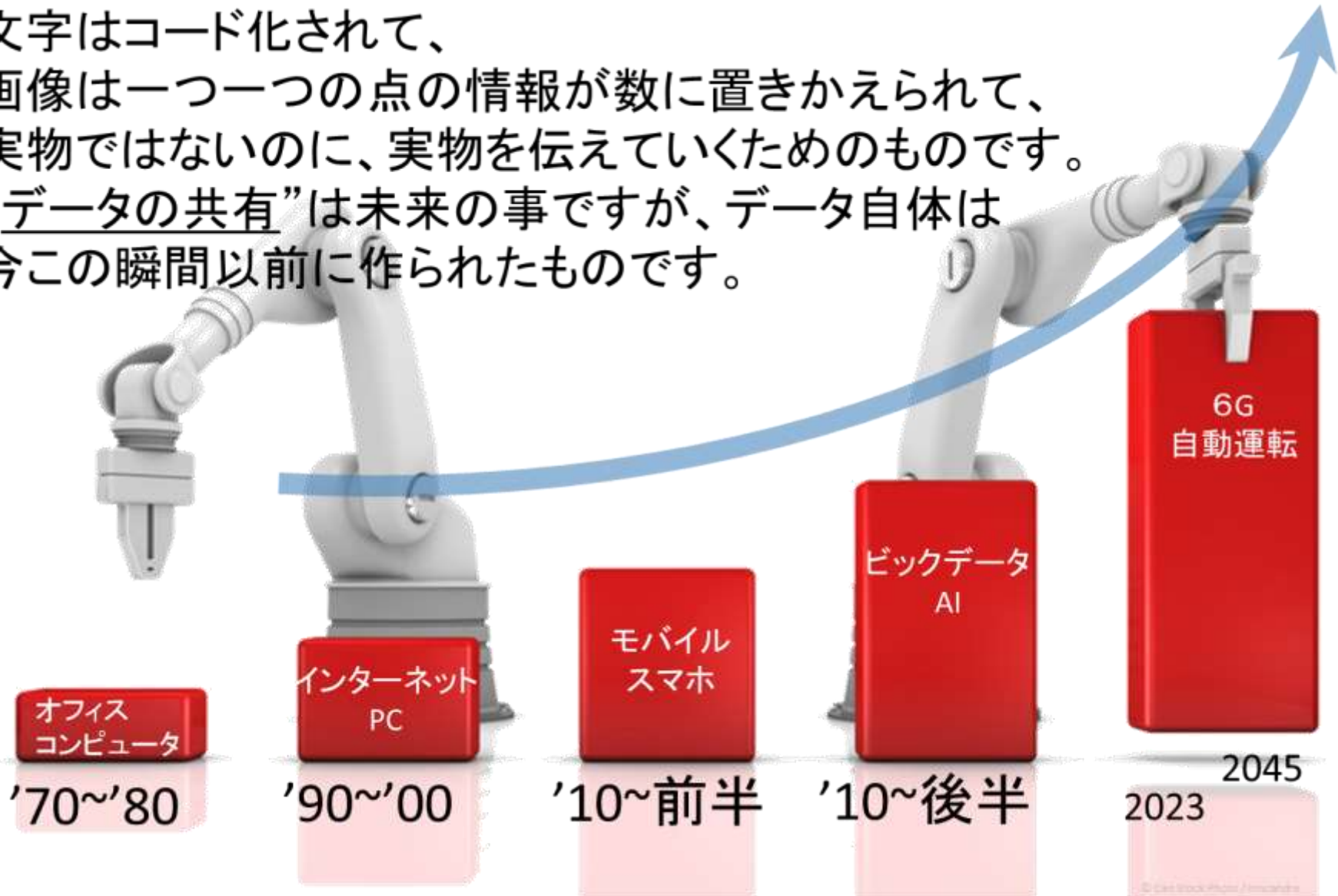
Efficient production **O**rganized by visualization

これ以降は、セッションCについてのご説明です



■ 共有するデータは...？

文字はコード化されて、
画像は一つ一つの点の情報が数に置きかえられて、
実物ではないのに、実物を伝えていくためのものです。
“データの共有”は未来の事ですが、データ自体は
今この瞬間以前に作られたものです。



■ 増え続けてきたデータで...?

生産者が、『求められることを追及する』行動から『達成したいことを探る』行動に変わってきました。いわゆる、モノから、コト、といわれるものですね！



■ そこで本日の発表テーマは...!!

生きたデータを最大限活用することで、
過去の失敗は予防し、今の目標は達成し、
そして我々自身がより豊かに(向上)なっていくための、
皆様の生産現場でもありがちな事例をお届けします。



業務シナリオWGタイトル		参加企業
5A04	DX時代における 過去トラの蓄積と利活用の進化	ブラザー工業 ほか
5E03	マスカスタマイゼーションをサポートする 『つながる化』	IHI ほか
5E01	DX-MESトレサビの新たな価値創出 (KPI)	フロンティアワン ほか
5C03	人・モノの実績可視化／ 分析と最適化- II (次世代IEの追究)	マツダ ほか

